

維新の大阪市財政局、毎日新聞への執拗な攻撃

大阪市役所の市民情報プラザで、定期的に「大阪市長会見全文」をチェックしている。全文が掲載されるのは、会見から1週間から10日後になってしまう。先日11月19日の会見録を読んで、相変わらずの市長発言に驚いた。読売新聞の記者が財政局問題について質問すると、市長は「毎日新聞でしょう、一番問題だったのは。だから、共同作業で作文を作ったんだから。いまだにそれに対しての、そのことに対して全く自分たちは悪くないという態度で、記事の訂正も何もしていないわけだから、問題はそこにあっただんじゃないですか。(中略)このままメディアとして、そういう態度のメディアなんだなということ、これは僕は全国に言っていきたいと思いますね」読売テレビの記者が、「市長としては、今回、財政局がこうした試算を出したということについては、やはり大阪市を残すというところで、そういう思いから今回こういう資料が作られたというふうにお考えでしょうか」と質問すると、市長は「取材した毎日新聞のそういう誘導的な話の中でついつい、それは大阪市残したいですよ」と答えている。読売記者の誘導的な質問に対する松井市長の意図的な中傷発言に腹が立つ。

写真は12月4日の財政総務委員会の質疑予定表。議題外発言を聞きたくしたが、抽選に外れ傍聴できなかった。5日の毎日新聞朝刊が詳しく伝えているので紹介する。

大阪市を4つの自治体に分割した場合、年間計218億円の行政コスト増になるとした市財政局の試算を毎日新聞が報じたことなどについて、市議会財政総務委員会で4日、質疑があった。大阪維新の会は、毎日新聞記者と財務課長(当時)の取材上のやりとりを含む公用メールを示し、11月1日に投開票された「大阪都構想」の住民投票で世論を反対に誘導するために「政治的な意図があったのではないか」と質問したが、課長は否定した。維新の丹野壮治市議は、標準的な行政コストを示す「基準財政需要額」の仕組みや数値に関する記者の質問を含み、課長が財政局内で共有した公文書の4通を提示。課長が需要額算定の検証の必要性に言及していたことなどから「課長が率先して毎日新聞に働きかけて世論を誘導するために絵を描いていたように推測できる。政治的意図があったのでは」と指摘した。これに対し、課長は「誘導する意図もないし、政治的な意図もない」と否定し、「誤った記事にならないよう情報提供した側の説明責任を果たすという使命だった」と説明した。報道を巡っては、毎日新聞記者から事前に記事の草稿を受け取った財政局幹部が局内で共有後に一部を廃棄していた。丹野市議は多数の財政局幹部が同局での在籍歴が長いことを取り上げ、「いびつな人事配置が招いた仲間意識の強さが組織を守ることに専念してしまった」と批判。東山潔財政局長は「コンプライアンス(法令秩序)が欠如していたと深く反省している」と陳謝した。

(2020年12月10日)

委員会名	財政総務委員会	
開会予定時刻	午後1時	7分
議決案	第1委員会室 / 1階東3部会議室	議
議題	1) 付託案件の審査	13分
質疑者等	説明 質疑なし	2分
	2) 陳情書の審査 (新規分24件)	
	説明	16分
	質疑等	30分
	松本野村委員(自民)	20分
	武 直樹委員(共産)	10分
	(引き継ぎ審査中4件)	
	採決等	2分
	○議決外審査(質問)	70分
	丹野市議(維新)	70分
	アール議員より採決の採否 採決の採否に関する議案について	
	市長(自民)15:00	
	議決の採否に関する議案について	
	議決の採否に関する議案について	